

東レ株式会社 会社紹介

2024年12月

— 身の周りにある“東レ”

トレビーン®



アンダーシンク型 高除去タイプ

トレビーン® ブランチ

東レ素材の使用例



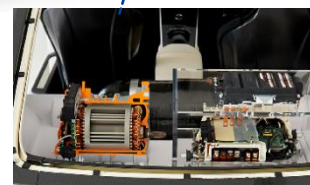
エアバッグ

タッチパネル

カーシート



xEVインバーター
xEVコンデンサ



xEVバッテリー

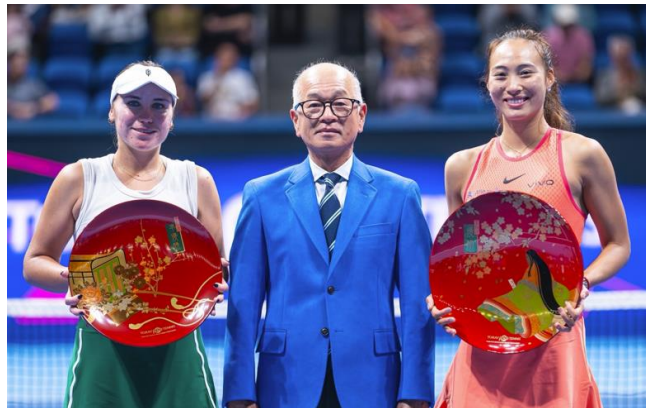
サマーシールド (晴雨兼用傘)



リサイクル繊維 & +®



— 身の周りにある“東レ”

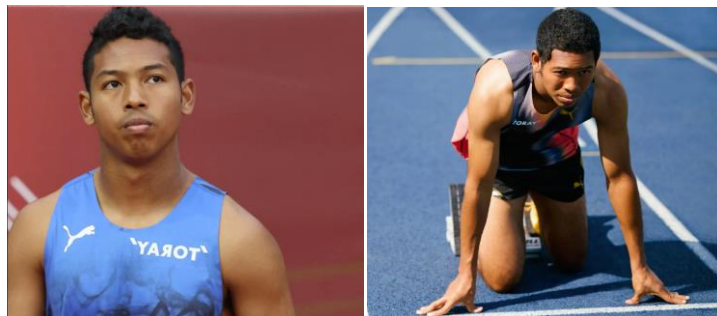


東レ パンパシフィックオープンテニス [🔗](#)

アイコンのご説明

[🔗](#) をクリックいただくと、関連するホームページに遷移します

[📺](#) をクリックいただくと、関連する動画を視聴いただけます



サニブラウン・アブデル・ハキーム選手と4年間のグローバルパートナーシップ契約を締結 [🔗](#)



東レアローズ(バレーボール) [🔗](#)



有明アーバンスポーツパーク



トレファーム(砂栽培農業施設)

社会貢献活動



理科・環境教育支援(出張授業)



生物学オリンピック支援



青空サライズ教室



キャリア教育・企業見学



小中学生への剣道指導



基礎科学の振興・助成

1. 東レグループの概要	6
2. セグメント紹介	10
3. 成長戦略 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025”	28
4. 業績推移	34
5. 参考情報	40

1

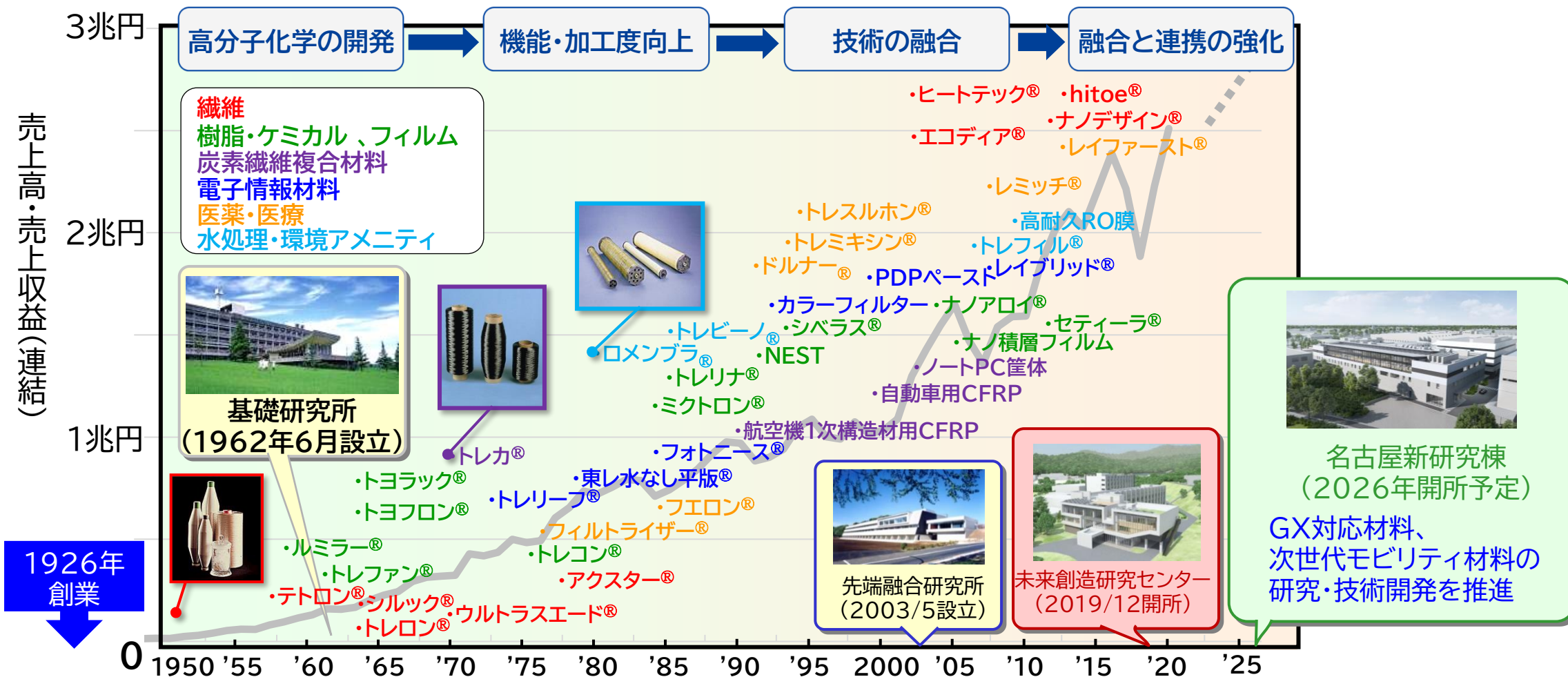
東レグループの概要

会社名:	東レ株式会社
設立:	1926年1月
資本金:	1,479億円
売上収益:	2兆 4,646億円（2023年度）
関係会社数:	306社（国内 112社、海外194社）
従業員数:	東レ 6,995人
	国内関係会社 10,432人
	海外関係会社 30,713人
	計 48,140人
	（2024年3月末現在）



代表取締役社長
大矢 光雄

東レグループの事業変遷



レミッチ®は鳥居薬品株式会社の登録商標です。

ヒートテック®は株式会社ファーストリテイリングの登録商標です。

セグメント別売上収益・事業利益

(億円)

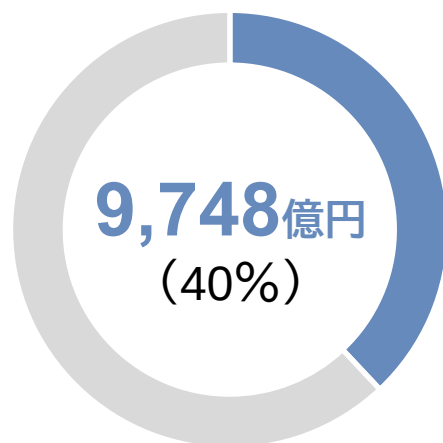
セグメント	主な製品	2024年3月期 連結売上収益	構成比率	2024年3月期 連結事業利益
 繊維		9,748	40%	547
 機能化成品		8,861	36%	367
 炭素繊維複合材料		2,905	12%	132
 環境・エンジニアリング		2,441	10%	232
 ライフサイエンス		522	2%	▲ 13
その他		169		33
調整額		-		▲ 272
合計		24,646		1,026

2

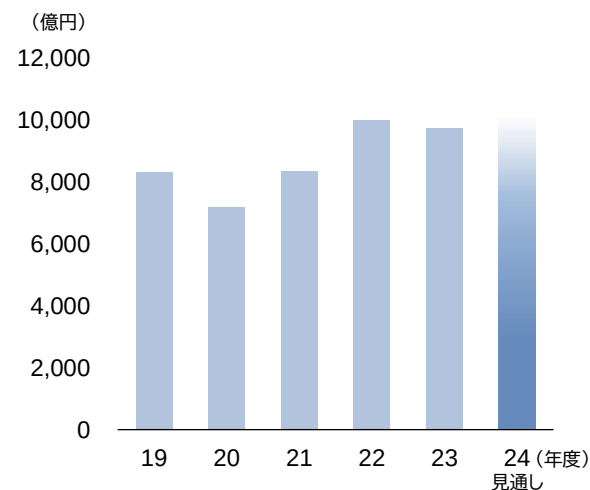
セグメント紹介

繊維セグメント

2023年度売上収益



売上収益推移



主な製品・事業



- ・ ナイロン繊維
- ・ ポリエステル繊維
- ・ アクリル繊維、他



テキスタイル



縫製品

- ・ 3大合成繊維(ナイロン、ポリエステル、アクリル)を含む様々な糸を展開
- ・ 糸だけでなく、テキスタイル、縫製品までのサプライチェーン一貫型事業を展開
- ・ エアバッグ用基布事業や不織布事業など産業用途にも展開
- ・ 中国・東南アジア等におけるグローバルオペレーションを確立



エアバッグ用原糸・基布



人工皮革



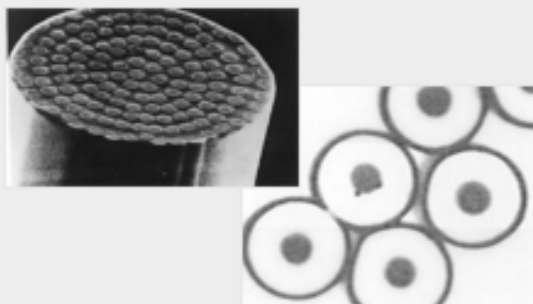
衛生材料用不織布

繊維事業の強み

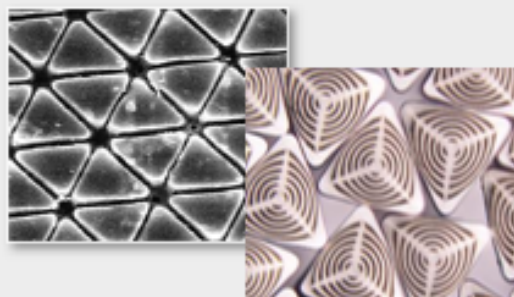
- コア技術(高分子化学)に立脚した長期スパンでの素材の蓄積
- 素材力をベースに生地、縫製の多様な組合せによる価値の増幅

超精密な複合設計

<従来技術>



NANODESIGN
TECHNOLOGY



多様なポリマー

-Ny6、Ny66
-PET、PBT、3GT
-リサイクル
-バイオマス...

製糸・糸加工

-ハイカウント
-混織
-シック&シン
-燃糸...

高次加工

-織・編
-染色
-減量
-撥水・防水...

撥水ストレッチテキスタイル DEWEIGHT™



NANODESIGN
TECHNOLOGY

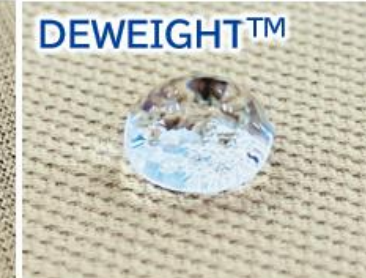
DEWEIGHT™

PFASフリー撥水とファッション性を
両立した素材創出

<ニット生地での撥水性>



従来PET

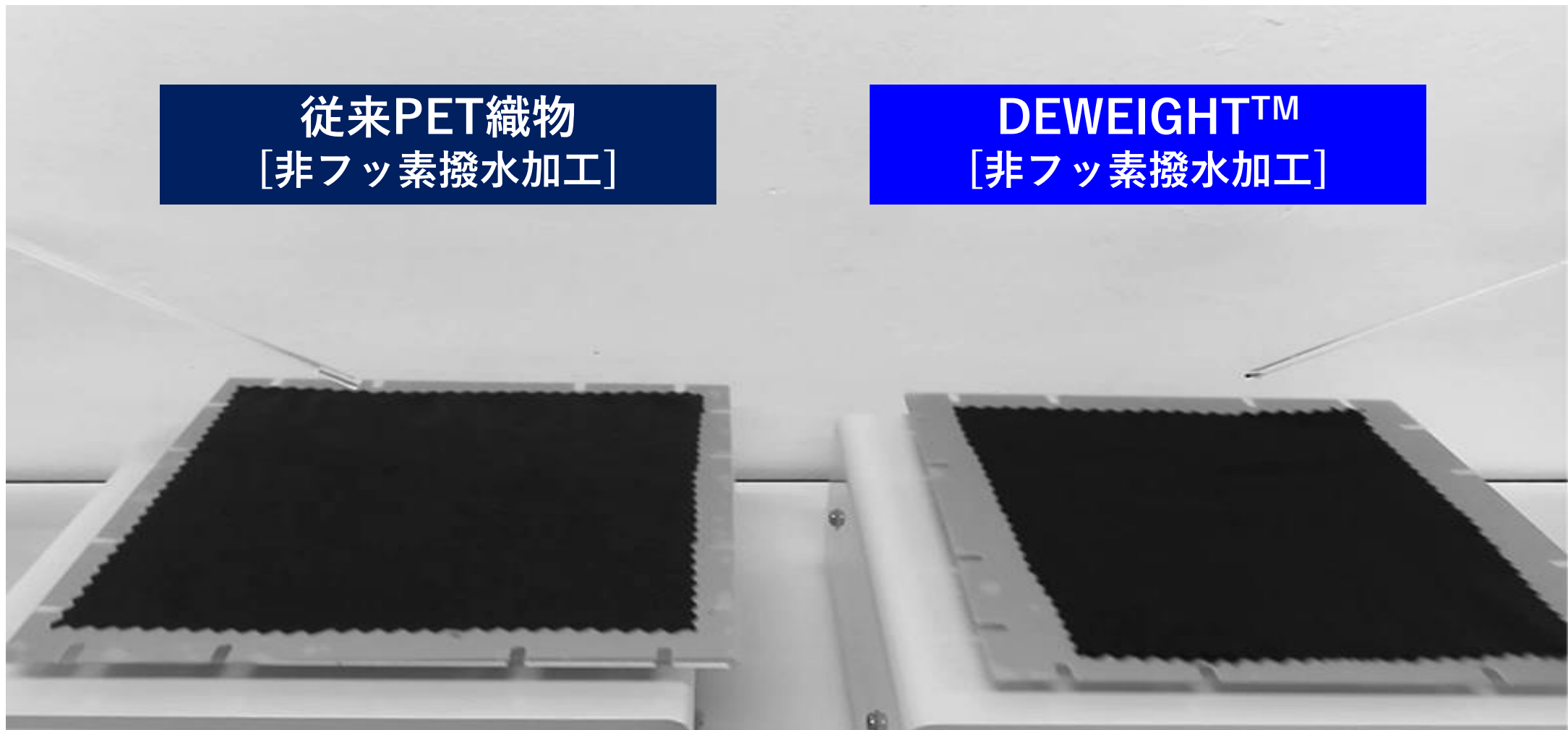


DEWEIGHT™



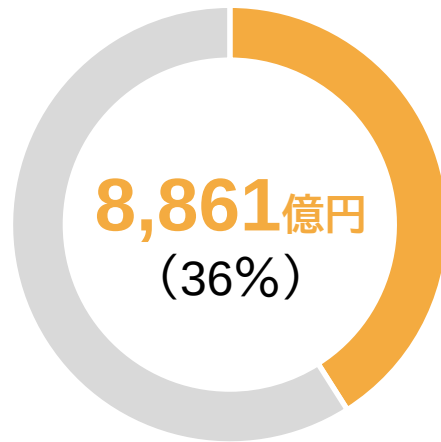
ニットで撥水を実現

— DEWEIGHT™の撥水性能

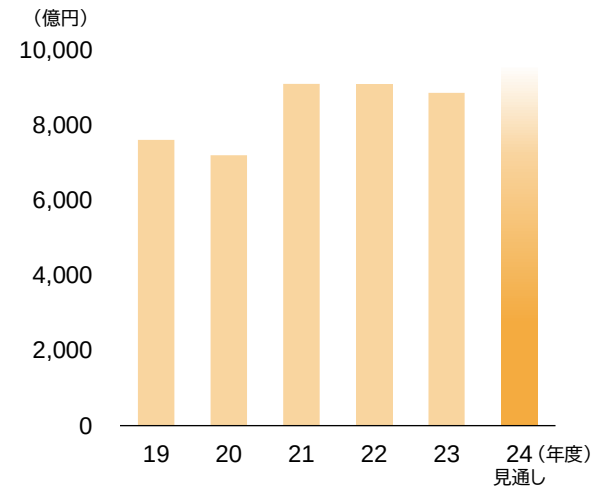


機能化成品セグメント

2023年度売上収益



売上収益推移

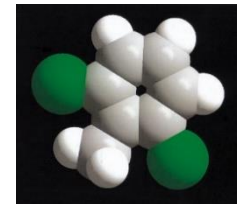


主な製品・事業

樹脂・ケミカル事業

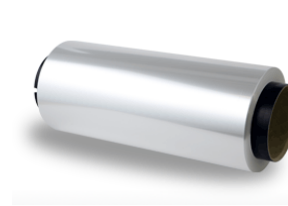


- ・ABS樹脂
- ・ナイロン樹脂
- ・PBT樹脂
- ・PPS樹脂 等



- ・ケミカル製品
- ・動物薬

フィルム事業



- ・ポリエステルフィルム
- ・ポリプロピレンフィルム
- ・PPSフィルム
- ・アラミドフィルム 等

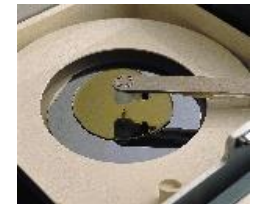


リチウムイオン
二次電池向け
バッテリーセパレータ
フィルム

電子情報材料事業



- ・有機EL関連材料
- ・回路材料



半導体関連材料

- ・樹脂・ケミカル、フィルム、電子情報材料の各事業を展開
- ・自動車向け樹脂、MLCC離型用PETフィルム、有機EL関連材料などの製品を含む

樹脂事業

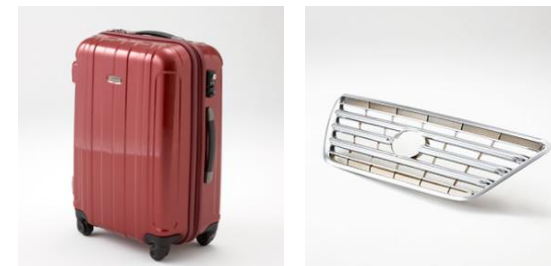
様々な用途に対応可能なラインナップやグローバルな事業展開を活かし、成長領域（次世代自動車、5G等）での事業拡大を推進

東レグループの強み

用途

ABS樹脂

- 世界2拠点（日本・マレーシア）で生産
- 高機能な透明ABS樹脂世界シェアは約4割
- 透明、耐熱、耐薬品性等の機能を付与した高機能ABS樹脂市場の世界需要は年率5%*で成長



家電、雑貨、自動車など

エンジニアリングプラスチック

- ナイロン、PBT、PPS、LCP樹脂などの幅広いラインナップ
- 次世代自動車や、低誘電特性が必要な5Gなど、成長領域での事業拡大を推進
- ユーザー立地を基本に消費地で生産、グローバルに生販技拠点を設置



自動車、電子部品など

*当社推定

— フィルム事業

長年培ってきた技術力や、地産地消のグローバルな生産・供給体制を活かし、成長分野での高付加価値品拡大、新製品・新用途の開発・創出を目指す

東レグループの強み

用途

PET (ポリエステル) フィルム

- 世界6極拠点、生産能力約40万t/年
- 情報通信、産業全般、包装材など幅広い用途に展開
- 市場の拡大が期待できるMLCC*離型用フィルムにおいてシェア50%以上を有する



ディスプレイ、MLCC*離型用途 など

OPP (延伸ポリプロピレン) フィルム

- 高品質な薄膜フィルムを安定的に大量に生産



一般工業用途、xEVコンデンサ用途 など

*積層セラミックコンデンサ

電子情報材料事業

東レグループの高度なコア技術を活かし、顧客ニーズに適した高付加価値品を創出
先端材料・プロセスの提案を通じてソリューションを提供することにより事業拡大を推進

東レグループの強み

用途

有機EL関連材料

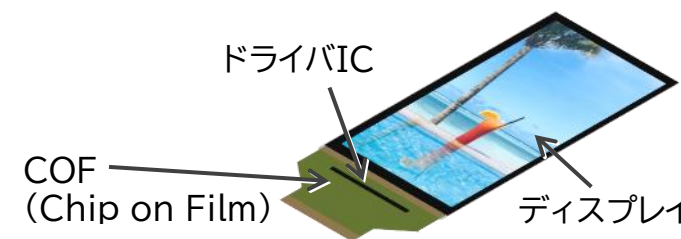
- 有機ELディスプレイ分野に各種先端材料を幅広く展開
- 絶縁層はデファクト・スタンダード
- 有機ELディスプレイの需要は、モバイル用途、テレビ用途ともに拡大する見通し



有機ELディスプレイにおける
絶縁層、有機発光材料など

フレキシブル回路基板 (COF)

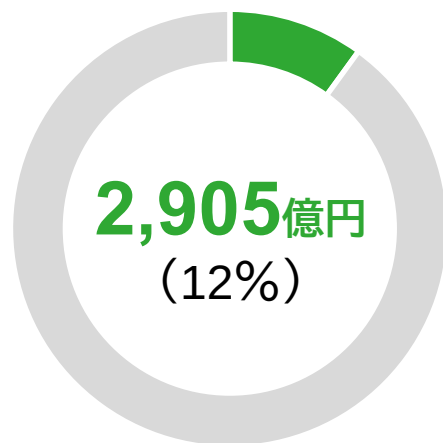
- 最先端の微細化技術、世界初の両面基板製品化など、最先端材料を提供
- グループ内で完結したサプライチェーン、各社の先端技術を強みにシェアを維持・拡大



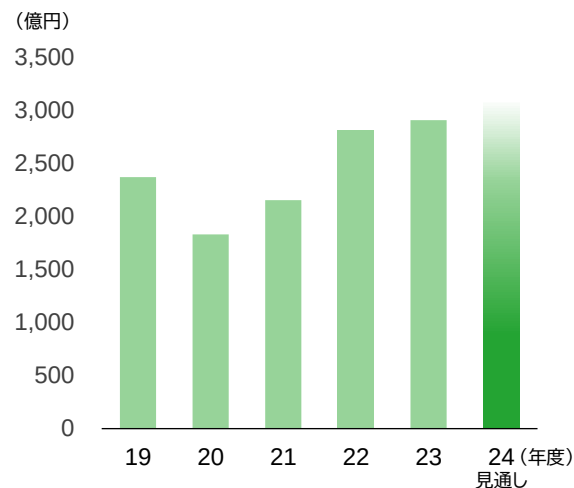
ディスプレイのドライバICなどを
実装するフレキシブル回路基板

炭素繊維複合材料セグメント

2023年度売上収益



売上収益推移



- 航空機用途をはじめとした高品質炭素繊維に加え、コスト競争力のある産業用途向け炭素繊維も含め、トップメーカーとしての地位を確保
- 炭素繊維だけでなく、プリプレグ(炭素繊維に樹脂を含漬させたシート)や織物、成形品まで、サプライチェーンの各段階でグローバルに事業を展開
- 航空宇宙、スポーツ、一般産業各用途に展開

主な製品・事業



炭素繊維

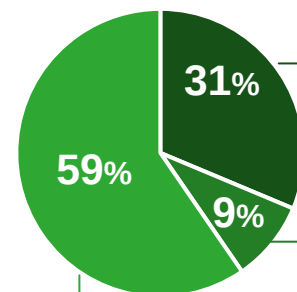


プリプレグ



成形品

2023年度売上収益(2,905億円)の内訳



航空宇宙用途

- 航空機
- 人工衛星
- ロケット



ボーイング787

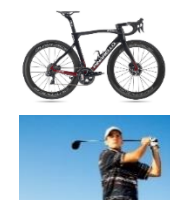
一般産業用途

- 風力発電翼
- パソコン筐体
- 燃料電池電極基材
- 圧力容器
- 自動車部材 など



スポーツ用途

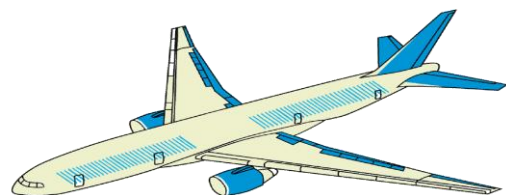
- 自転車
- ゴルフシャフト
- テニスラケット
- 釣り竿
- ホッケースティック



航空機向け炭素繊維

炭素繊維複合材料の適用拡大(ボーイング社の例)

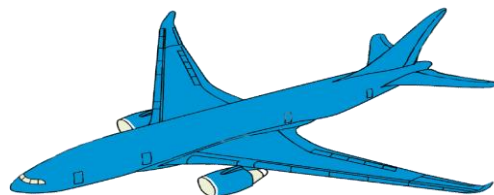
777型機



一次構造材として適用



787型機



構造材の複合材化進展

※青色箇所が炭素繊維複合材料適用部位

航空機での炭素繊維複合材料 採用の効果

- ① 耐腐食性向上 ⇒ 機内湿度向上
- ② 高強度 ⇒ 機内気圧向上
- ③ 最適空力設計 ⇒ 静粛性向上
- ④ 高強度 ⇒ 窓大型化
- ⑤ 軽量化 ⇒ 燃費向上

GHG削減

温室効果ガス

■ CORSIA(国際民間航空のためのカーボン・オフセット及び削減スキーム)

国際線を有する航空会社は、CO₂排出量が基準を上回っている場合、その超過分に相当する排出枠を購入しなければならない

CORSIA



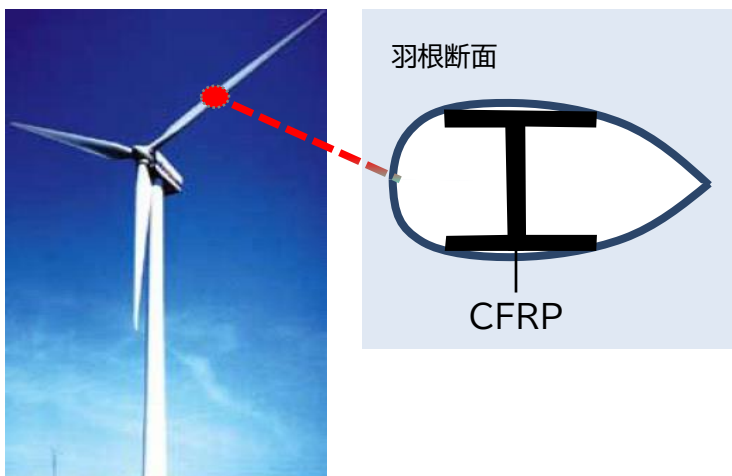
2027年～義務化開始

風力発電翼向け炭素繊維

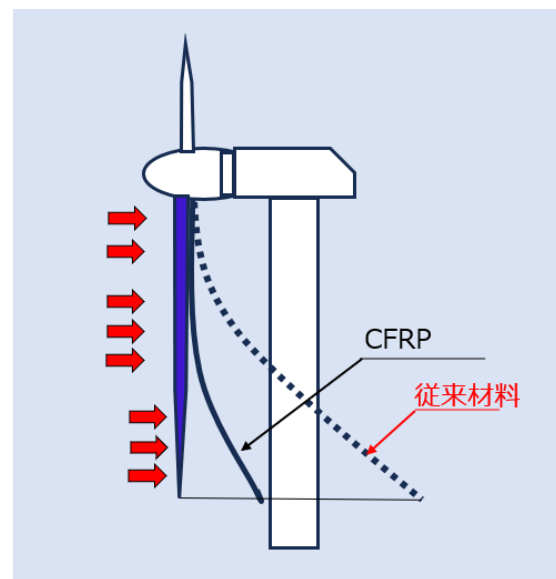
- 風力発電設備の成長に加え、立地の制約により設置場所が洋上および低風速地域へ拡大し、風力発電翼(ブレード)の大型化・炭素繊維比率の上昇が期待される
- 風力発電翼用の炭素繊維は一時的な需要低迷の影響を受けたが、需要は緩やかに回復しており拡大を見込む

■ 風車の大型化

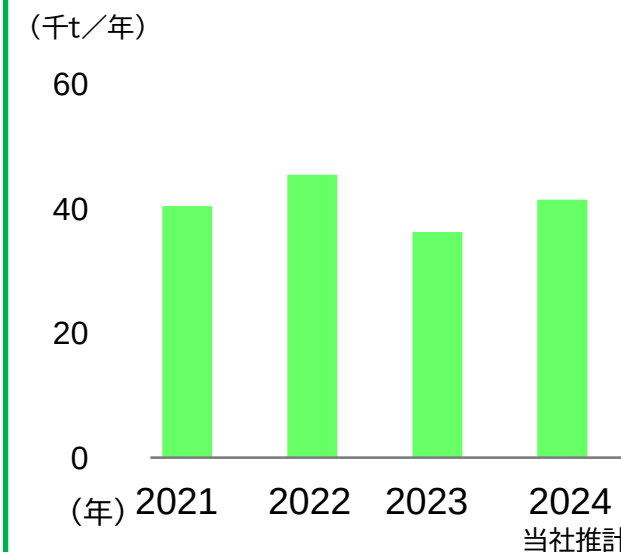
ブレードの長尺化により軽量・高剛性の要求が高まり炭素繊維品(CFRP)への切り替えが加速



■ ブレードのたわみの違い(イメージ)



風力発電翼用炭素繊維 の需要見通し



— 圧力容器向け炭素繊維

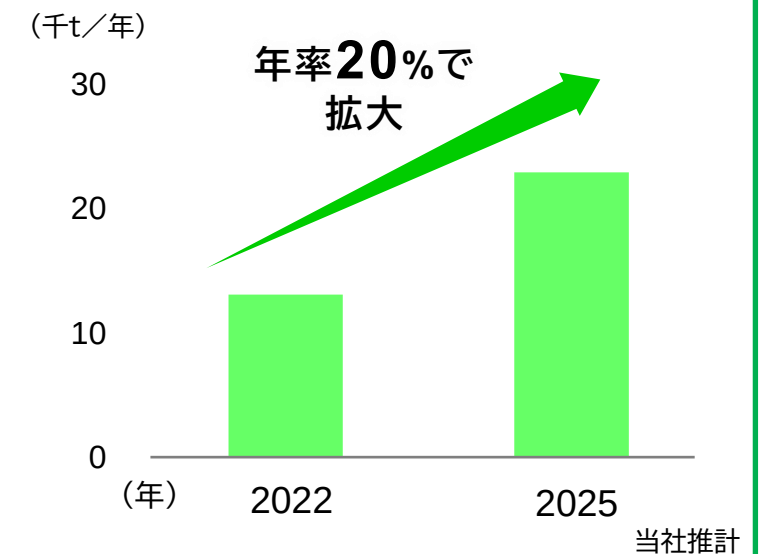
CNGタンク、水素タンク用途で世界No.1シェアを維持

- 圧縮天然ガス(CNG)タンクは、宅配業務用CNG車両およびガス輸送タンクの需要が堅調に増加
- 水素タンクは、燃料電池を使用する乗用車、物流トラック、鉄道、船舶などへの採用が拡大
- 米国・韓国拠点の炭素繊維の生産能力について、合計6,200トンの増強を決定(2025年生産開始予定)

採用用途



圧力容器用炭素繊維の需要見通し

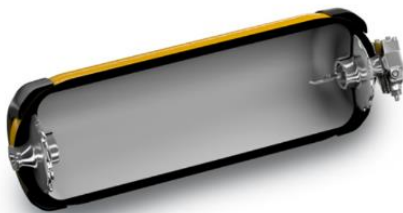


— 2026年以降に拡大が見込まれる主な用途

水素タンク

炭素繊維需要規模
2030年に2025年比

4倍
(90,000t)



©トヨタ自動車(株)

洋上風力発電

炭素繊維需要規模
2030年に2025年比

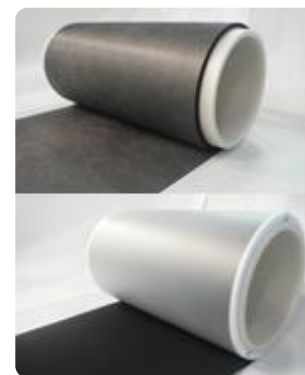
1.3倍
(92,000t)



ガス拡散層基材

炭素繊維需要規模
2030年に2025年比

3.5倍
(1,200t)



上：トレカ®カーボンペーパー
下：ガス拡散層

空飛ぶクルマ(UAM)

炭素繊維需要規模
2030年に2025年比

10倍
(2,000t)



©Joby Aviation, Inc.

次世代航空機

炭素繊維需要規模
2030年近傍に

3,000t



©The Boeing Company

宇宙(ロケット)

宇宙産業の市場規模^(※)
2040年に2025年比

2.3倍
(1兆\$)



©JAXA

(注)炭素繊維需要規模は当社推定値

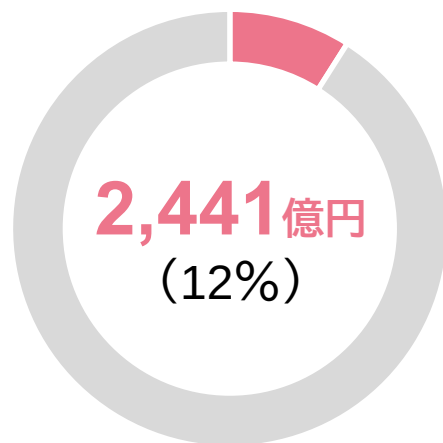
(※)モルガンスタンレー社予測に基づく
<https://www.morganstanley.com/ideas/investing-in-space>

— 空飛ぶクルマUAM（動画）

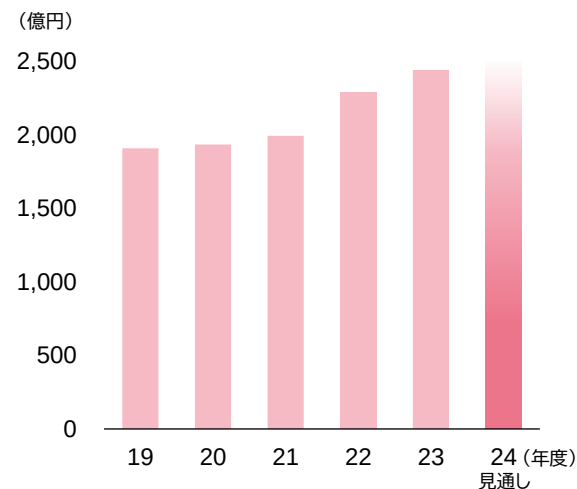


環境・エンジニアリングセグメント

2023年度売上収益



売上収益推移



主な製品・事業



水処理膜



水処理膜装置



プラント・
エンジニアリング事業



エアフィルター



家庭用浄水器



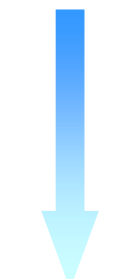
建設・不動産事業

- 海水淡水化用逆浸透膜等、多くの水処理膜製品を保有
- プラント建設、産業機器・システム提供、上下水道施設の設計・施工・監理等エンジニアリング事業を展開
- 建設・不動産開発事業も展開

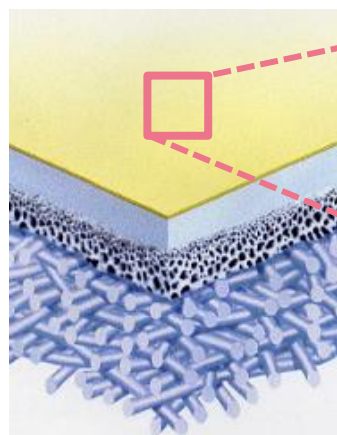
水処理膜の製品ラインナップ

分離機能層

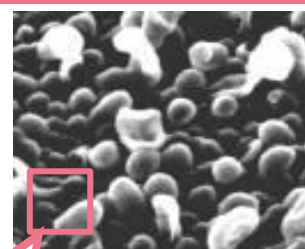
供給水
(海水)



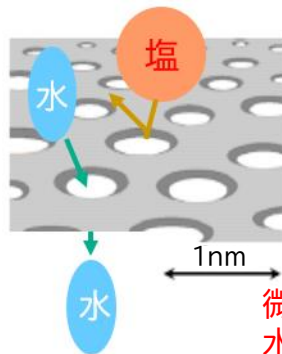
透過水



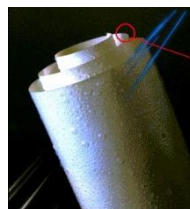
RO(逆浸透)膜



表面微細構造



微細孔を利用し、
水と塩を分離



RO膜シート

全てのレンジの膜製品を自社で研究開発 ⇒ 生産 ⇒ 販売 ⇒ 技術サービス
幅広い原水に対応



逆浸透(RO)膜事業のグローバル展開

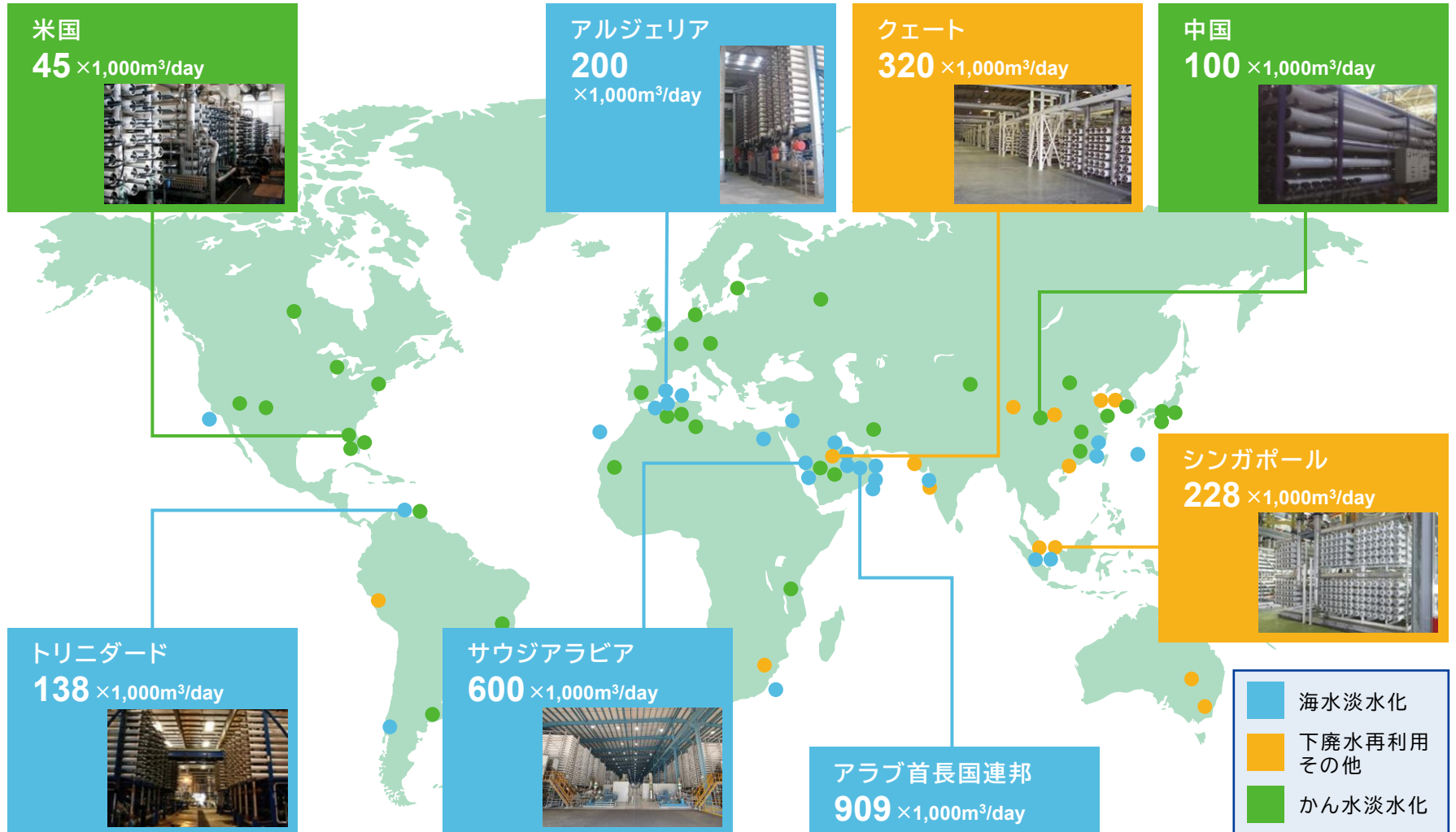
産業用RO膜市場は
年率5%で成長

累積水量換算
136,000
×1,000m³/day

9.5 億人分の生活用水に相当

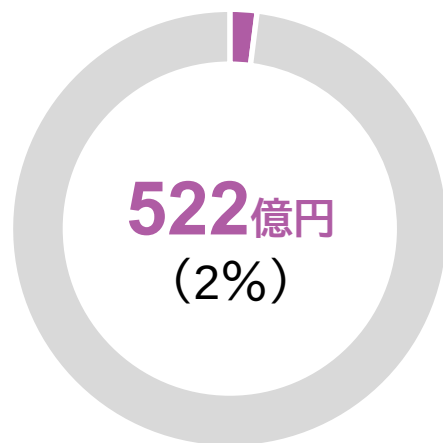
用途	累積水量換算値 (1,000m ³ /day)
海水淡水化	32,700
下廃水再利用 その他	16,200
かん水淡水化	74,300
超純水	12,800

主な受注プラントの例 【2024年3月末現在】

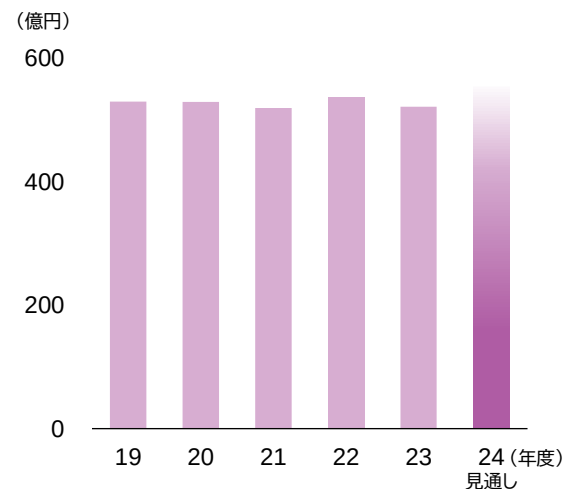


— ライフサイエンスセグメント

2023年度売上収益



売上収益推移



■ 主な製品・事業

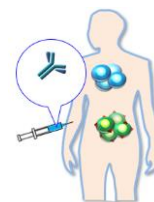
※点線枠内は事業化に向けて開発中

医薬事業



経口そう痒症改善薬
レミッチ®*

*レミッチ®は鳥居薬品株式会社の登録商標です。



がん治療薬
TRK-950
(抗体医薬)

医療機器事業



中空糸型透析器
トレライト®



吸着式血液浄化用
浄化機器
トレミキシン®

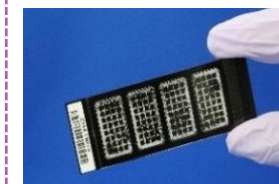


不整脈治療用
バルーンカテーテル
アブレーションシステム
HotBalloon™

新規事業



体外診断用医薬品
東レAPOA2-iTQ®



高感度DNAチップ
3D-Gene®

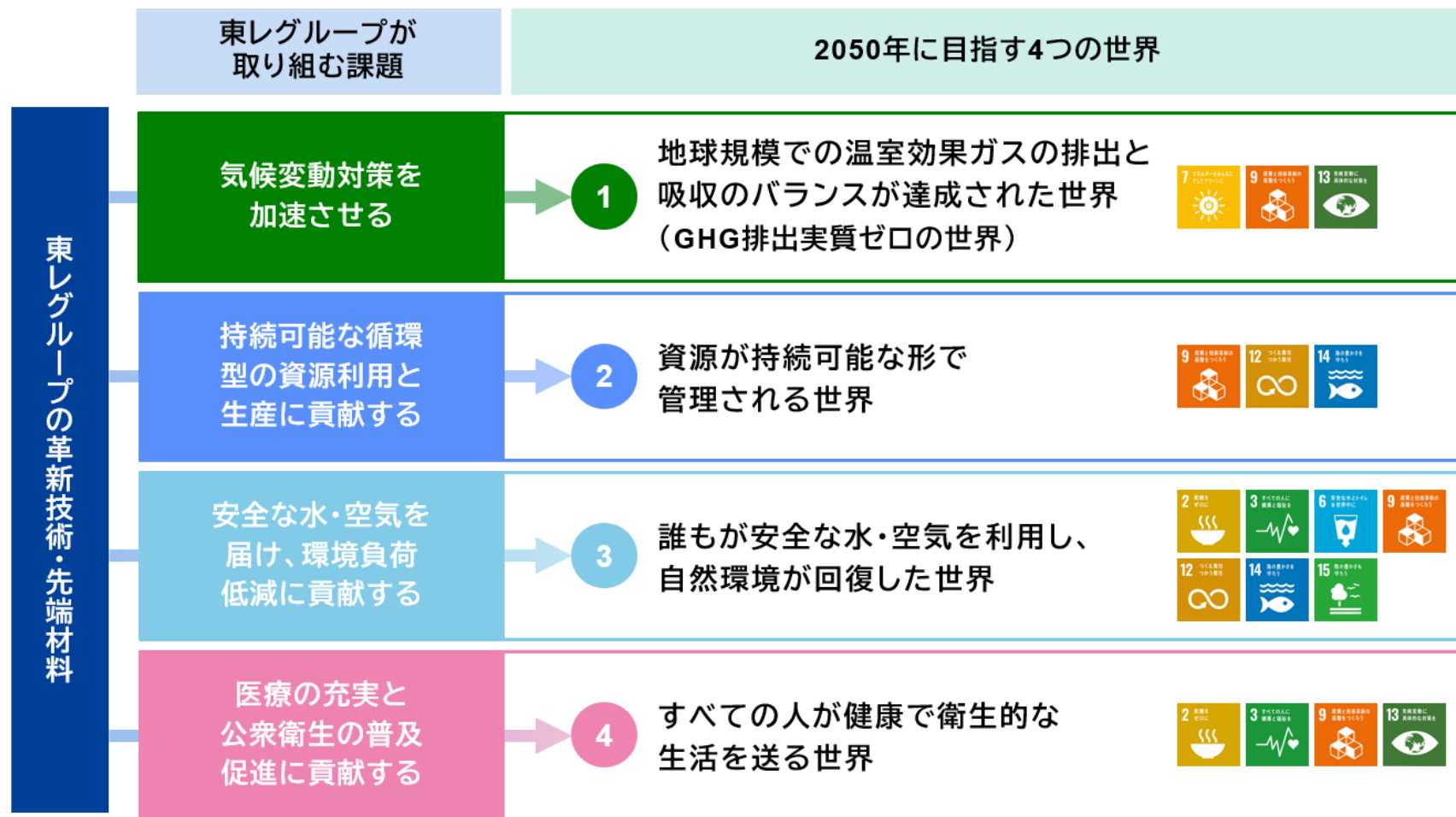
- ・ 医薬品・医療機器事業を展開
- ・ 開発中新薬の確実な上市と更なる新薬パイプラインの拡充
- ・ 高付加価値医療用具の開発・上市
- ・ バイオ・ナノテクノロジーの融合による、革新的バイオツールの創出

3

成長戦略 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025”

東レグループ サステナビリティ・ビジョン

世界が直面する「発展」と「持続可能性」の両立をめぐる地球規模の課題に対し、
革新技術・先端材料の提供により、本質的なソリューションを提供します



東レグループの革新技術・先端材料

— 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025”の基本戦略

- サステナビリティイノベーション事業とデジタルイノベーション事業を柱として「持続的かつ健全な成長」を実現
- 5つの基本戦略に加え、利益、キャッシュフロー、資産効率性のバランスに配慮した事業運営による財務健全性の維持・強化

AP-G 2025 5つの基本戦略

収益機会を捉える成長戦略

1 持続的な成長の実現

サステナビリティイノベーション事業とデジタルイノベーション事業に経営資源を重点化

2 価値創出力強化

有形・無形の資産の活用や社外との連携により収益力を最大化

3 競争力強化

競争力の源泉である品質力の強化と組織の総合力を活かした組織横断的コストダウン活動を推進

成長を支える経営基盤強化

4 「人を基本とする経営」の深化

人を育てる企業文化の継承と発展、個のキャリア形成の充実と働きがいの向上

5 リスクマネジメントとグループガバナンスの強化

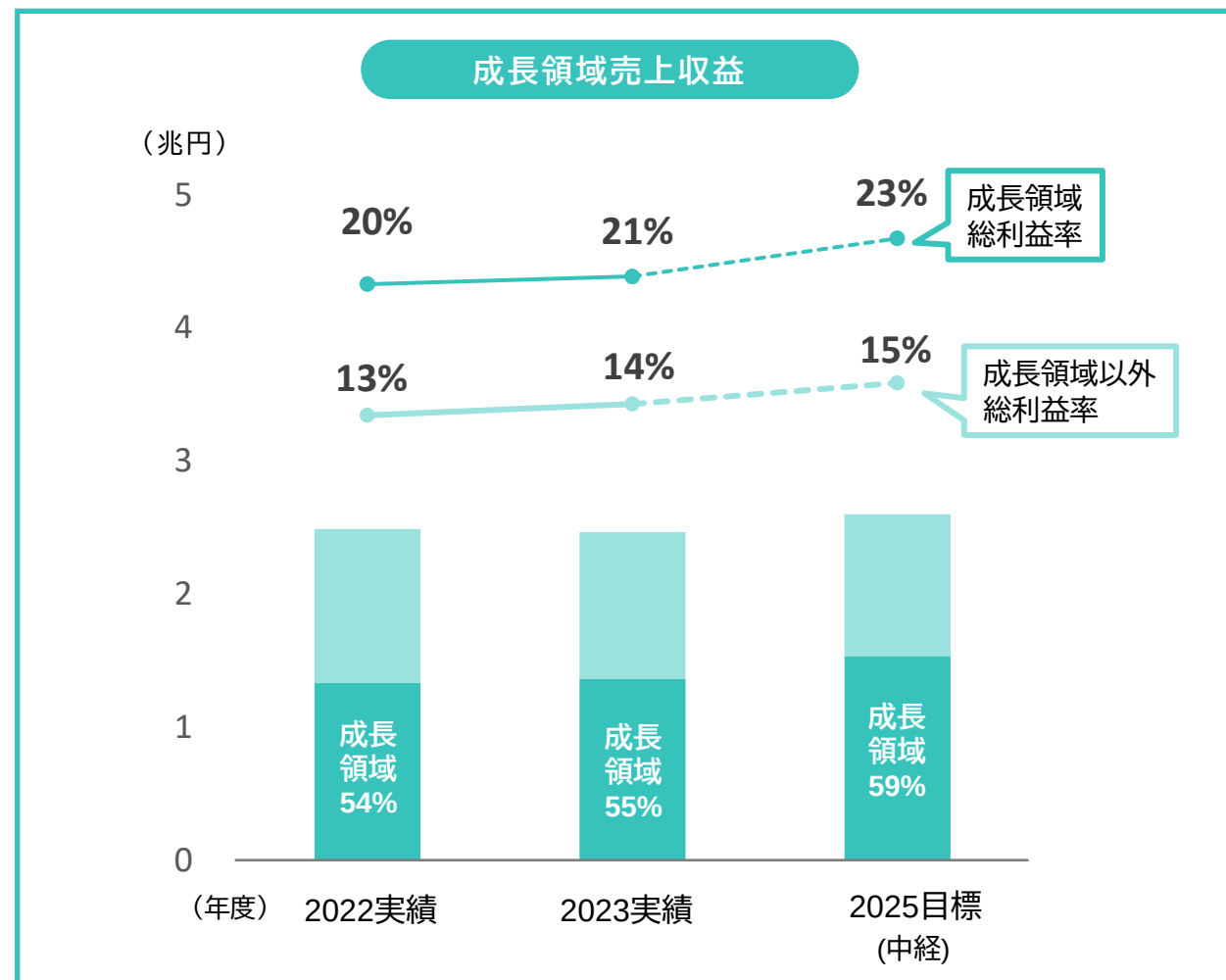
内部統制の強化とマネジメント力向上による健全な組織運営の実現

サステナビリティイノベーション事業^(*)とデジタルイノベーション事業の売上収益を全体の6割程度まで拡大

AP-G 2025の成長領域

SI事業 サステナビリティイノベーション事業 (*1)	1 気候変動対策を加速させる製品
	2 持続可能な循環型の資源利用と生産に貢献する製品
	3 安全な水・空気を届け、環境負荷低減に貢献する製品
	4 医療の充実と公衆衛生の普及促進に貢献する製品
DI事業 デジタルイノベーション事業	デジタル技術の浸透により、利便性や生産性の向上に貢献する材料、装置、技術、サービスなど

*1.「東レグループサステナビリティ・ビジョン」の実現に貢献する事業・製品群



目標

サステナビリティイノベーション事業の2025年度売上収益 1.6兆円

サステナビリティイノベーション(SI)事業

医療と公衆衛生に貢献

例



安全な水・空気の提供

例



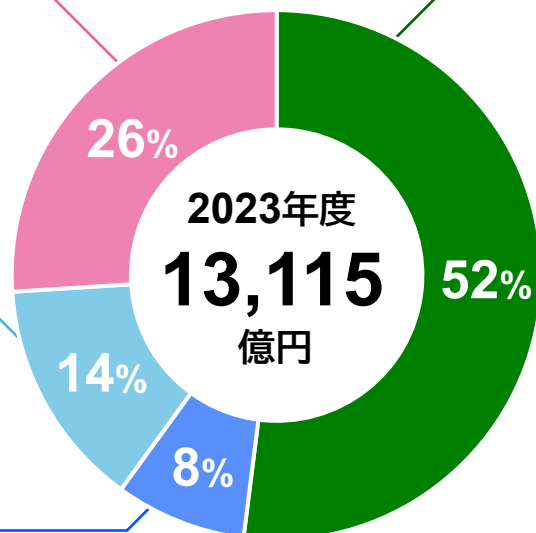
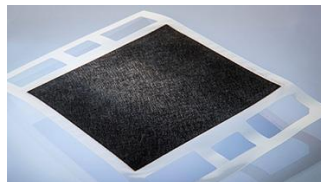
資源循環への貢献

例

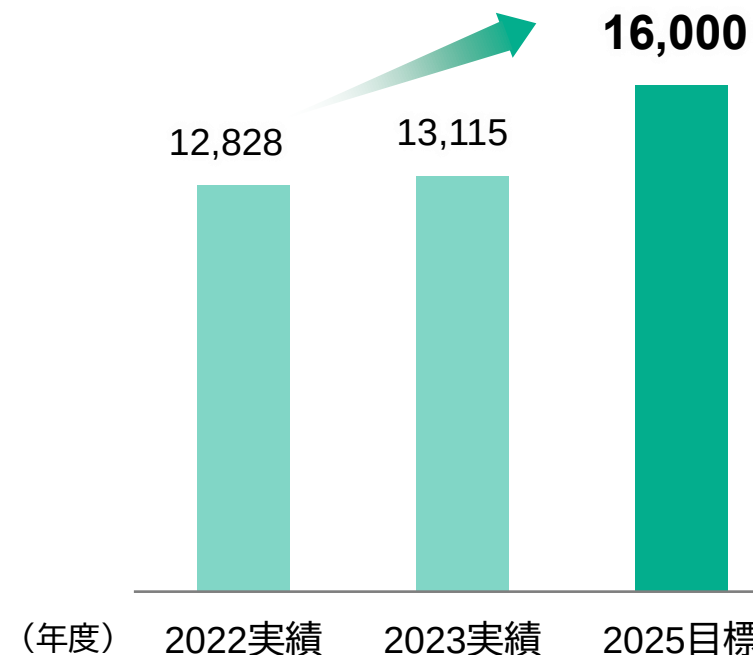


気候変動対策の加速

例



SI事業の売上収益目標(億円)



目標

半導体・ディスプレイ用途を主に2025年度売上収益 2,500億円

デジタルイノベーション(DI)事業



エレクトロコーティング剤・実装材料



半導体製造・検査装置



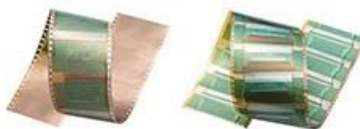
洗浄・剥離溶媒



超純水製造用RO膜



半導体モールド用
離型フィルム



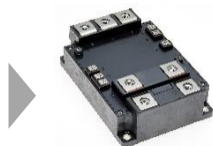
フレキシブル回路基板



ディスプレイ用材料

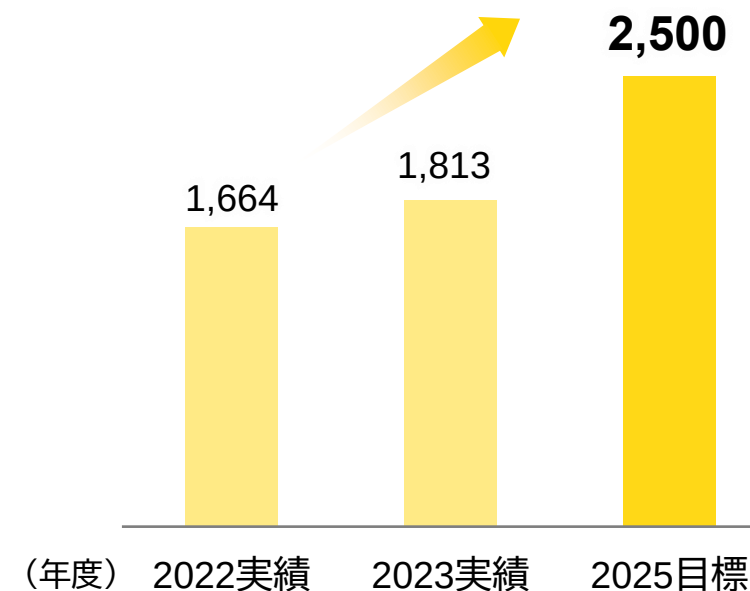


パワーモジュール用
PPS樹脂



三菱電機様ご提供

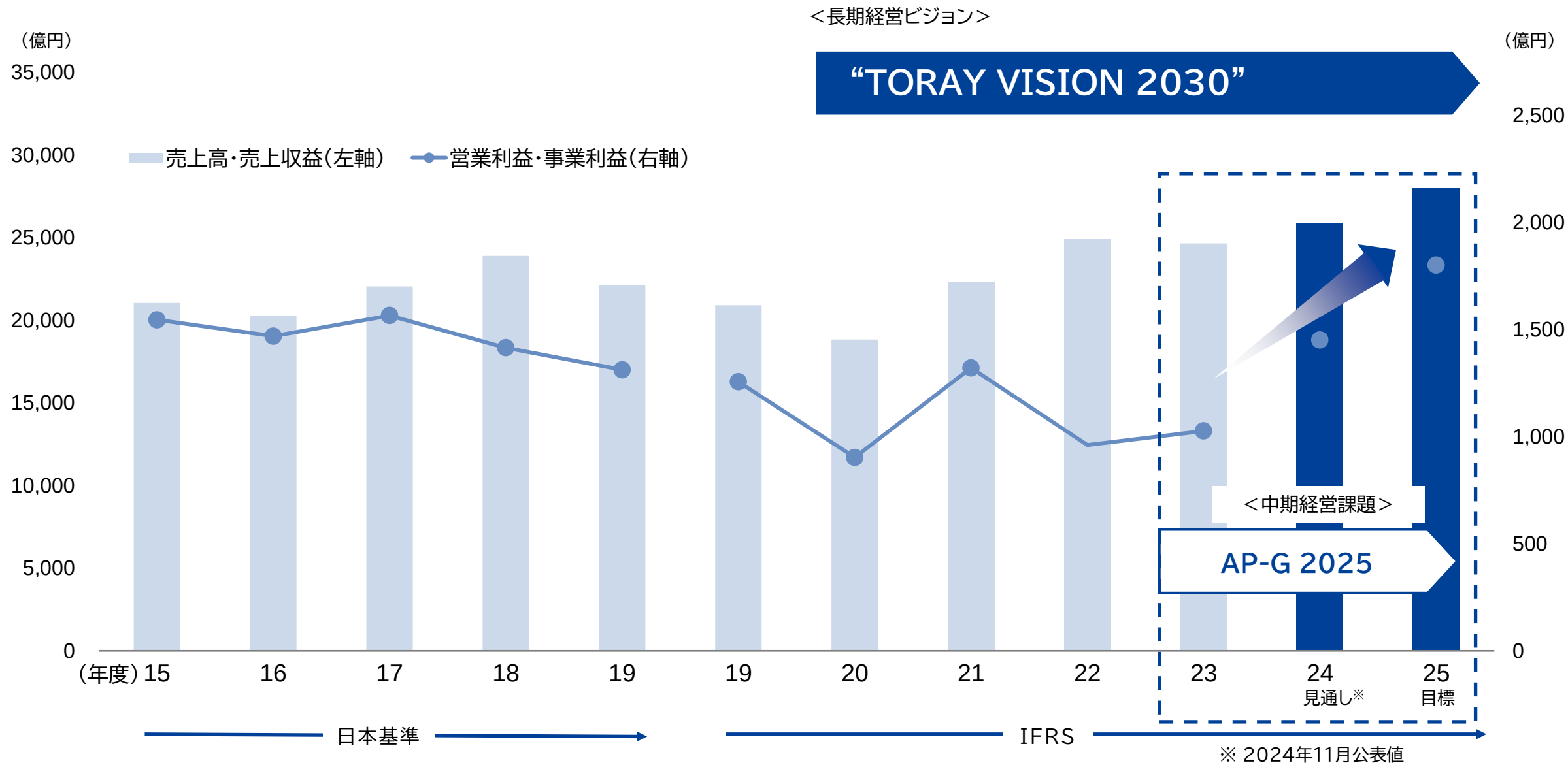
DI事業の売上収益目標(億円)



4

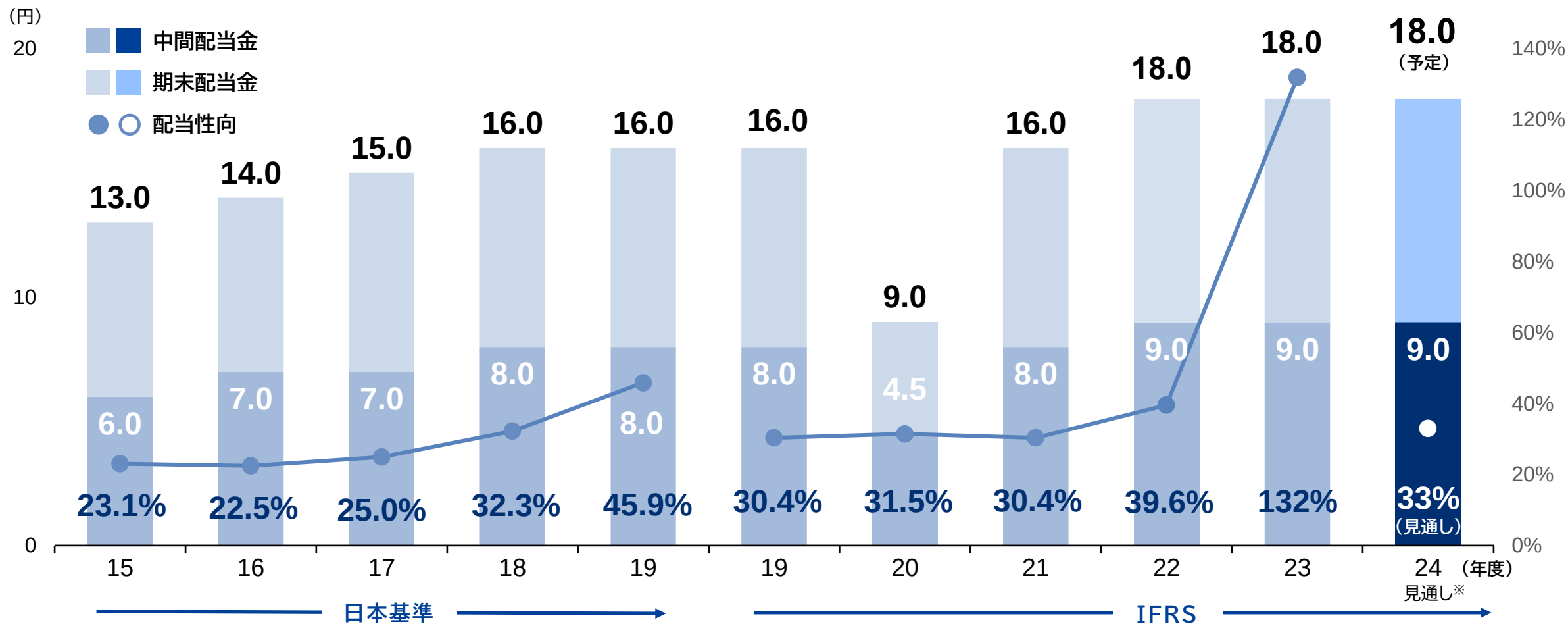
業績推移

売上高・売上収益、営業利益・事業利益の推移



株主還元

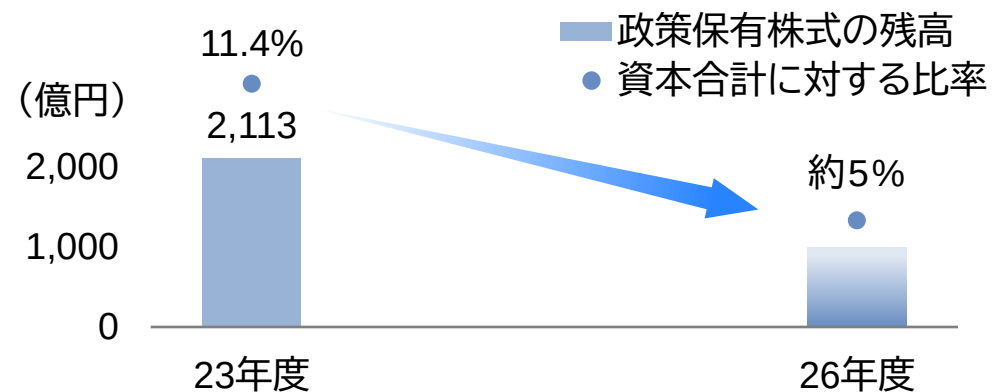
AP-G 2025では、安定的かつ継続的配当の維持を基本として、利益成長による配当額増加を目指し、配当性向は30%以上とします



政策保有株式の縮減と自己株式の取得

2024年5月13日公表の政策保有株式縮減方針

- 資本効率の改善を加速するため、政策保有株式を半減する。
(2024年度～2026年度の3年間で 50%、約1,000億円削減)
- 売却代金は、全額を自己株式取得に充当。

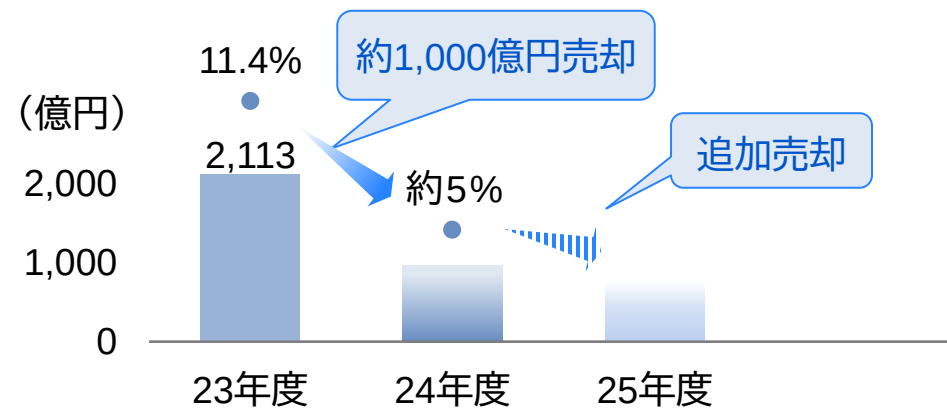


政策保有株式の縮減・実行状況

- 2024年度は約1,000億円の売却となる見通しであり、目標を2年前倒しで達成する見込み。
- 2025年度も追加の売却を予定。

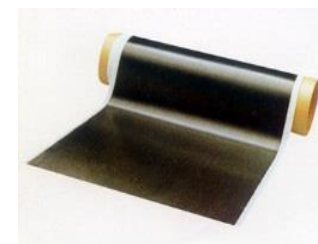
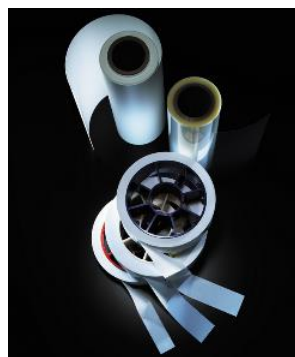
自己株式の取得

- 取得総額: 1,000億円(上限) ■ 取得株数: 155百万株(上限)
- 取得期間: 2024年11月8日～2025年11月7日



わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します

素材メーカーである東レグループは、成長している分野へ求められるものを継続的に創出するにとどまらず、サービスの付加やソリューションを提供することで、社会的課題の解決に重要な役割を果たす「真のものづくり」を追求し、社会に貢献する



*「ヒートテック®」は株式会社ファーストリテイリングの登録商標です



5

参考情報

- 本資料は、東レグループの事業内容等に関する情報の提供を目的とするものであり、当社株式への投資を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載した業績予想、見通し及び事業計画等は、資料作成時点において入手可能な情報に基づく東レグループによる仮定及び判断に基づくものであり、その正確性および完全性を保証し、また約束するものではありません。
- 業績予想、見通し及び事業計画等は、今後予告なく変更されることがあります。

東レグループに関する情報について

- 東レグループに関する、プレスリリース、製品・サービス、研究・技術開発、CSR、株主・投資家情報、会社情報等については、ウェブサイトをご覧ください。
- 株主・投資家情報のコーナーでは、「個人投資家の皆様へ」というコーナーも設けており、東レグループの経営戦略、事業内容等について、より分かりやすくご説明しています。

- 東レグループウェブサイト:



IR配信サービスのご紹介

- 「株主・投資家情報」→「IRメール」からメールアドレスをご登録ください。適時開示情報など最新の東レ関連IR情報を配信します。

アイコンのご説明

-  をクリックいただくと、関連するホームページに遷移します
-  をクリックいただくと、関連する動画を視聴いただけます

企業情報 サステナビリティ 製品・サービス 研究・技術開発 株主・投資家情報(IR) 採用情報 ニュースルーム

IR関連 > 株主・投資家情報(IR)

株主・投資家情報(IR)



説明会資料	IRイベント
2025年3月期 第2四半期決算	イベント・スケジュール
 決算発表説明資料 (2.0MB)	 決算短信 (281KB)
 スライド付き動画	 質疑応答要旨 (215KB)
 IRメール登録はこちら	

— 個人株主 事業説明会

- 株主様に事業説明会をご案内し、800通を超えるご応募の中から抽選で100名の株主様をご参加。
- 当社IR担当役員による事業説明、企業文化フロア(展示コーナー・歴史コーナー)見学の後、繊維研究所長による技術紹介をお聞きいただき、貴重なご意見・ご質問を頂戴しました。

東レ総合研修センター(静岡県三島市)での事業説明会(2024年10月5日開催)



第2四半期決算サマリー

連結業績

- 1 第2四半期累計の事業利益は過去最高の791億円、前年同期比で大幅な増益
- 2 通期見通しは業績動向等を踏まえ期初見通しを上方修正

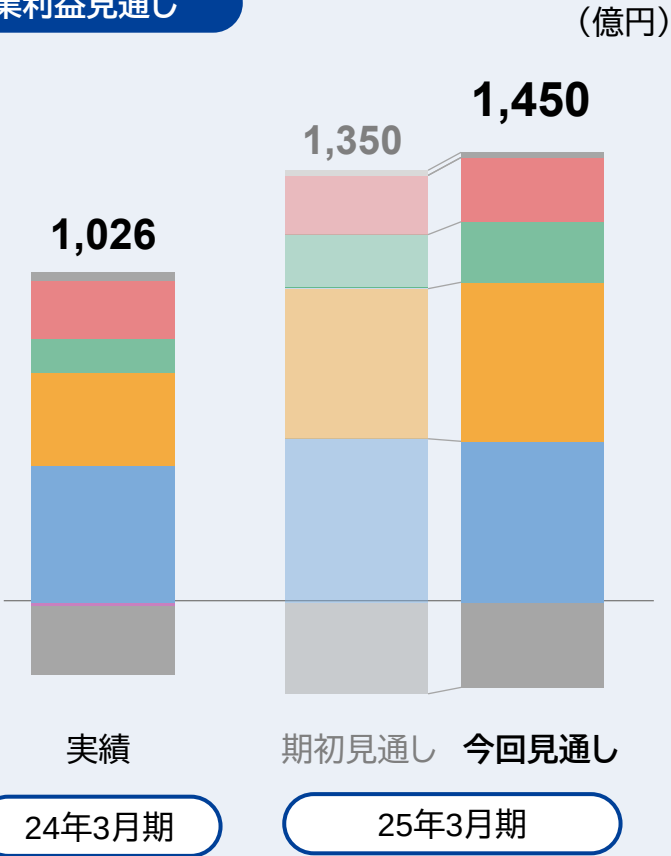
	2025年3月期 第2四半期 累計(4~9月)事業利益		2025年3月期 通期 事業利益			
	実績	前年同期比	期初見通し*	今回見通し	期初見通し比	
■ 繊維	344	+72	650	640	-10	↓
■ 機能化成品	340	+195	595	630	+35	↑
■ 炭素繊維複合材料	117	+41	210	240	+30	↑
■ 環境・エンジニアリング	118	+16	235	255	+20	↑
■ ライフサイエンス	▲6	-1	0	0	-	—
■ その他	6	-2	20	20	-	—
■ 調整額	▲128	-17	▲360	▲335	+25	↑
合計	791	+305	1,350	1,450	+100	↑

*期初見通し：2024年5月13日公表値

自己株式取得

政策保有株式の縮減と売却代金を全額自己株式取得に充当する方針に基づき取締役会にて自己株式取得を決議(取得価額総額の上限:1,000億円)

事業利益見通し



- 繊維 ■ 機能化成品 ■ 炭素繊維複合材料
- 環境・エンジニアリング ■ ライフサイエンス
- その他 ■ 調整額

— 2024年度 連結業績見通し(2024年11月7日公表内容)

業績見通しの前提

世界経済は、インフレ率の低下や金融緩和とともに緩やかに上向いていくものと見られ、国内経済も緩やかな回復が見込まれる。ただし、大統領選挙後の米国の財政政策や通商政策の動向、中国での不動産不況の長期化、欧米の金融政策が個人消費に与える影響、地政学リスクの高まり、日銀の金融政策変更や為替変動等が内外経済の下振れ材料として挙げられる。

億円

		24年3月期 実績	25年3月期 見通し	増減		期初見通し*	期初見通し との差異
売上収益	上期	11,994	12,941	+947	(+7.9%)	12,600	+341
	下期	12,652	12,959	+307	(+2.4%)	13,600	-641
	通期	24,646	25,900	+1,254	(+5.1%)	26,200	-300
事業利益	上期	487	791	+305	(+62.6%)	600	+191
	下期	539	659	+119	(+22.1%)	750	-91
	通期	1,026	1,450	+424	(+41.3%)	1,350	+100
親会社の所有者に 帰属する当期利益	上期	289	555	+267	(+92.3%)	390	+165
	下期	▲ 70	325	+394	(-)	420	-95
	通期	219	880	+661	(+301.9%)	810	+70
基本的1株当たり 当期利益	上期	18.03 円	34.66 円	為替レート的前提 (10月以降) 140円/US\$		* 期初見通し: 2024年5月13日公表値 (8月7日の決算発表では上期見通しのみを公表)	
	下期	▲ 4.35 円	20.27 円				
	通期	13.67 円	54.93 円				
1株当たり配当金	上期	9.00 円	9.00 円				
	下期	9.00 円	9.00 円				
	通期	18.00 円	18.00 円				
配当性向	通期	132%	33%				

セグメント別連結業績見通し(2024年11月7日公表内容)

億円

		24年3月期実績			25年3月期見通し			増減			期初見通しとの差異*		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	繊維	4,812	4,936	9,748	5,155	4,905	10,060	+343	-31	+312	+235	-285	-50
	機能化成品	4,331	4,530	8,861	4,775	4,765	9,540	+444	+235	+679	+105	-185	-80
	炭素繊維複合材料	1,411	1,493	2,905	1,528	1,542	3,070	+117	+49	+165	+68	-98	-30
	環境・エンジニアリング	1,115	1,325	2,441	1,145	1,355	2,500	+29	+30	+59	-65	-55	-120
	ライセンス	248	275	522	256	299	555	+8	+25	+33	-4	-16	-20
	その他	76	93	169	82	93	175	+6	-1	+6	+2	-2	—
	合計	11,994	12,652	24,646	12,941	12,959	25,900	+947	+307	+1,254	+341	-641	-300
事業利益	繊維	272	275	547	344	296	640	+72	+20	+93	+39	-49	-10
	機能化成品	145	222	367	340	290	630	+195	+69	+263	+65	-30	+35
	炭素繊維複合材料	76	56	132	117	123	240	+41	+67	+108	+37	-7	+30
	環境・エンジニアリング	102	130	232	118	137	255	+16	+7	+23	+28	-8	+20
	ライセンス	▲ 5	▲ 8	▲ 13	▲ 6	6	0	-1	+14	+13	+4	-4	—
	その他	8	25	33	6	14	20	-2	-11	-13	+1	-1	—
	調整額	▲ 111	▲ 160	▲ 272	▲ 128	▲ 207	▲ 335	-17	-46	-63	+17	+8	+25
	合計	487	539	1,026	791	659	1,450	+305	+119	+424	+191	-91	+100
事業利益率		4.1%	4.3%	4.2%	6.1%	5.1%	5.6%	+2.1p	+0.8p	+1.4p	+1.4p	-0.4p	+0.4p

* 期初見通し: 2024年5月13日公表値

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

